

誰もが、障がい・年齢に関係なく「できることではなく、やりたいことを」

取組に至る背景・事業の目的

高齢や障がいがあっても、外出や旅行に行きたい、連れて行ってあげたいと思っている当事者やご家族が、「そもそも無理だ」「家族に迷惑だから」など、やりたい出掛けたい気持ちに蓋をしまっているという現状に対して、ニーズの掘り起こし、観光関係者、宿泊施設関係者等と協働で推進することにより、誰もが「旅=夢」を諦めることなく、心豊かに暮らしを楽しめる環境づくりを推進していきたい。観光施設、宿泊施設等でのユニバーサル対応に温度差があるため、コーディネートに苦慮する場面が多々あった。地域全体での意識の共有、向上が必要であった。また、『多様性を尊重する共生社会づくり』につながる、人権教育、インクルーシブ教育を行いごちゃ混ぜな社会を実現したい。

事業内容

○ユニバーサルツーリズムの可能性、周知と啓発のためのセミナー

【ユニバーサルツーリズム推進フォーラム in すわ】

『誰にでも優しい観光地すわ』になるために～ 参加者 130 名

○諏訪近郊のモーターツアーにおける地域トラベルサポーターのスキルアップ 講習

- ・「花田養護学校生徒と車いすユーザーの白馬で田植え」
- ・「障がい者・高齢者団体の外出」など計 12 回 参加者 830 人

○あいサポーター研修・車いす・JINRIKI 体験の実施

- ・「原村立原中学校人権学習あいサポーター研修」
- ・「がん征圧イベントツアー信州松本」など計 13 回参加者 795 名

○インクルーシブ教育、人権教育、教育連携事業

特別支援学校、支援学級の外出支援におけるコーディネーター講習 **【ユニバーサルツーリズム推進フォーラム in すわ】**

- ・花田養護学校 WS 合計：3 回 参加者：160 名 外出 合計：2 回 参加者：80 名

○バリアフリー情報マップの作成

- ・講師：デザイナー：原田泰治氏 作成メンバー：ユニサポすわ、らくらく入店の会

- ・WS (全 10 回・バリアフリー調査随時 85 か所) マップ 5,000 部作製



事業効果

○フォーラムの開催により、全国での先進事例を当事者、家族、行政、観光関係者などが体験することにより、身近な自分ごととして考える機会となり、諏訪地域が一歩進んだ“誰にも優しい観光地”になるきっかけとなった。現地で調達できる福祉用具レンタルや自助具の導入紹介や展示を行い、手ぶらでバリアをフリーにできる安心・安全な外出を提案した。旅館・ホテルなどが高額な費用をかけずに、バリアフリー環境を提供する事が可能な事も周知できた。

○バリアフリーマップの作成・配布により、外出を諦めてしまっていた当事者やご家族に、安心感や勇気、やる気をもたらした行動に移すきっかけとなった。バリアフリー情報を出掛ける前に得て、心配事を減らせたことはハードルを低くする重要な要素になった。バリアがフリーではない場所についても、記載する事によりバリアを越えられる方法を見出し、越える危険を予知する事ができ、年齢や障がいを問わず多くの可能性を広げられるリーフレットが作成できた。収集した情報をリーフレットにまとめることにより、広く地域住民の目に触れ、バリアフリー環境への意識の高揚にもつながった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

諏訪圏では知名度もあがり、メディアでも取り上げられる機会が大変多くなってきましたが、コロナの影響により活動が制限される状態を余儀なくされております。先が見えない状況の中ではありますが、訪問介護事業所の開業も動き出し、感染予防の対策を万全に寄り添う気持ちと心は密接に、これからのユニバーサルな活動が地域の核になれるよう取り組んでいきたい。コロナ禍での新しい工夫と発想で安全で安心な多様性を尊重する共生社会づくりの強化を、これからも図っていきたい。

【選定のポイント】

人材育成や環境整備により、高齢者、障がい者等、誰もが旅行を楽しめる観光地域づくりの推進が期待される。

団体名	ユニバーサル・サポートすわ (茅野市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	090-3558-4502 牛山玲子	事業費	2,590,113円
HP	https://www.facebook.com/yunisaposuwa	支援金額	2,064,000円
Mail	yunisaposuwa@gmail.com		

新規就農者の地野菜生産を中核にした就農支援事業

取組に至る背景・事業の目的

- 近年、王滝村の人口が減少し、農業の中核を担っていた方の高齢化が進む中、地野菜の生産体制が弱まり、営農に限界が迫っている。同時に村の特産品の作付面積・収穫量も、ここ数年減少している。
- そこで、これまで村の農業の中心的役割を担ってきた高齢農業者が、まだ営農できるうちに、その技能をIターン等で来村された若者に受け継ぐ機会として、高齢農業者と若者の共同営農作業を推進するため、村内の高齢農業者からIターンで来村されたばかりのご家族までを幅広く対象とし、新規就農者の地野菜生産を中核にした就農支援事業を実施した。このことにより、地野菜生産拡大及び地域の農作業受託組織王滝村地域農業合理化組合（以下合理化組合）の再編を目指した。合わせて、今後の王滝かぶの生産を守るため、愛知用水流域からの観光客による収穫体験型農業を試験的に行い収穫作業における労力の補填を検討する中で、地野菜を通じた交流人口の増加を目指した。

事業内容

- 【水稻・王滝かぶ・そば栽培作業講習会】や【機械を活用した草刈り講習会】を行うにあたり、特産品目等の生産拡大を目指すため、それぞれに農作業機械を導入し、労力の省力化や、営農初心者の負担軽減を図った。
- 村内の多くの高齢農業者へ向けた受託農作業を供給できるよう、各種農作業機械運転講習会を開催し、多くの農業者が農作業機械を活用した効率の良い作業方法を習得した。機械のメンテナンス及び管理、運用を担う合理化組合においても、村内若者及び定年退職者の農作業機械オペレーター育成を同時に推進することができた。



【第1回 水稻栽培講習会参加者】

事業効果

- 新規就農者育成が活発に実施された。
- 機械導入により労力の省力化を実現できた。
- 合理化組合の新規オペレーター5名の育成ができた。
- 村外からの王滝かぶ収穫体験者による労力の補填に成功した。
- 【王滝かぶ】 H29 作付 0.4ha 収穫 5.0t→H31 作付 0.7ha 収穫 10.0t
- 【そば】 H29 作付 4.7ha 収穫 1.5t→H31 作付 4.9ha 収穫 1.4t
- 【水稻】 H29 作付面積 3.9ha→H31 作付面積 3.9ha



【労力補填：秋の王滝かぶ収穫体験】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 王滝かぶの生産を守るため、春秋の栽培等において、県外者の収穫体験を受け入れながら効率の良い栽培を目指す。同時に春の王滝かぶ赤かぶ漬・すんきの商品化を、少しずつ拡大させ、収穫作業における労力の補填を実施するなか、地野菜の収穫体験を通じた交流人口の増加へもつなげる。当該事業の営農活動におけるIターン者等の活躍が、未来のIターン者を受け入れる際のきっかけづくりになる可能性も十分秘めているため、多くの新規就農者の王滝村での営農を全面的にバックアップすることにより、長期を見据えた定住促進へつなげる。

【選定のポイント】
 水稻・王滝かぶ・そばの栽培講習会で営農初心者へ機械利用の講習会を開き、機械作業の担い手を育成するなど機械利用組合の人材確保・育成への取り組みが評価できる。今後も営農活動を通じて移住定住の促進に繋がることを期待する。

団体名 王滝村	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先 0264-48-2001	事業費	2,829,492円
ホームページ http://www.vill.otaki.nagano.jp	支援金額	2,145,000円
メールアドレス otakivil@vill.otaki.nagano.jp		

女性のための起業・複業お仕事マルシェ信州プロジェクト

取組に至る背景・事業の目的

女性の活躍が大きく期待される現在において、女性が「自分らしく」キラキラと輝くことができる地域づくりを実現するため、地元女性に起業や複業等の多様な働き方の存在とその魅力や可能性を知ってもらう機会を創出し、古くから商都として起業家精神が根付く、信州・松本を「日本一女性が起業しやすいまち」として実現していく。

事業内容

- ・女性のための起業・複業お仕事マルシェ信州プロジェクト
「マルシェの森 2019in まつもと」の開催
 - ・9/21～22、松本市勤労者福祉センター
 - ・女性を対象としたブース出展型イベント
(地元女性起業家とのふれあいエリア、女性アーティスト&パフォーマーエリア、女性の起業複業ガイドエリア、女性の起業複業サポートエリア、パートナーズエリア、女性起業家ステップアップ講座エリア)
- ・ホームページの運営及び冊子の発刊(10,000部)



【マルシェの森 2019in まつもと】

事業効果

- ・2日間の「マルシェの森 2019in まつもと」を通して、約2,000人の地元の女性に起業という働き方の魅力を発信することができた。
- ・来場された方だけでなく、交流マルシェで出展された女性起業家からも会場内での様々な交流を通して、貴重な出会いや発見を得ることができ、今後の活動に大いに役立つという意見が聞かれた。
- ・イベントと連動して発刊した冊子の反響が大きく、県内の女性の活躍推進に取り組む団体等からも活用の申し出があり、大きな広がりを作ることができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・本事業を通して、多くの女性起業家から得た貴重なアイデアやヒントを活用し、より多くの信州の女性が自分らしく夢に向かって色々なことに挑戦できる「イベント×インターネット×紙媒体」を連動させた魅力的な基盤(プラットフォーム)づくりにチャレンジしていく。

【選定のポイント】
女性の活躍をテーマにした社会的なニーズに合致した取組が展開されている。また、ウェブサイトを開設し、多種多様な情報を発信するとともに、地域で活躍する女性起業家を紹介する冊子を作成する等、広く情報発信がされており、取組の発展的継続に期待する。

団体名	日本一女性が起業しやすいまちづくり信州実行委員会(松本市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	事務局(古田) 090-2423-4439	事業費	1,998,452円
ホームページ	https://startup-shinshu.com/	支援金額	1,598,000円

あさひの採れたて野菜を楽しんで！

取組に至る背景・事業の目的

朝日村において、レタス、キャベツ、ハクサイ等の葉野菜の生産や、新鮮な地元産野菜の給食材としての活用等、地産地消や食育支援に取り組む中で、朝日産の野菜の特徴やおいしい食べ方、地元ならではの調理法等をまとめたレシピ集を作成した。作成したレシピ集を活用し、広く県外に対して、朝日産の農産物の認知度向上、販売促進、交流人口増を図るとともに、村内においては、子ども等を中心に朝日産の野菜のおいしさや多様性を知ってもらい、ふるさと朝日村への愛着と誇りを高める。

事業内容

- ・レシピ本「信州朝日村 採れたて野菜をもっとおいしくあさひ村からの野菜だより」の作成・配布・活用
 - ・作成
(3,000冊、村民からのレシピの募集、村内農家や移住者等によるデザイン、撮影、調理等による製作)
 - ・配布
(村内全戸、公共施設、商工会、飲食店、JA等)
 - ・活用
(村内、村外の野菜販売イベントや農業者セミナー、JA料理講習会等においてレシピ紹介、料理教室の開催)



【完成したレシピ集】

事業効果

- ・広く村内からレシピを募集したことで、朝日村の野菜について農家以外の人からの関心が高まった。
- ・デザインやイラストなど参加者の特技を活かして冊子を作成する中で、既存の村民と移住者との新たなつながりがうまれた。
- ・完成したレシピ集の評価が高く、宣伝媒体としても効果的に活用できた。
- ・レシピ集への問い合わせやイベント参加の依頼が増加した。
- ・小品目生産を目指す生産者組織の設立の契機にすることができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・レシピ集の完成時期(9月)が、野菜シーズンの終盤となり、イベントや料理教室の内容が限定的となったため、次年度以降、村外での活動を含む計画的な取組により、朝日村や朝日産野菜への関心を高める。小学校や保育園の子供たちとの活動においても同様に、子供たちの栽培する野菜農園の成長にあわせて野菜の説明や料理の会を開催する等、野菜により親しんでもらう活動を行う。また、日本一野菜を食べる健康市町村(成人一日あたり400グラム)を目指しての活動を始める。

【選定のポイント】

朝日産野菜をPRするためのレシピ集の作成にあたり、レシピの募集から製作まで広く住民等の参画を得ることができ、また、既存住民と移住者との交流を促進することができた。イベントや料理教室等、引き続きの取組に期待したい。

団体名	朝日村女性農業者担い手協議会 (現. にない〜て)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0263-99-2001 (朝日村産業振興課経由)	事業費	1,122,660円
		支援金額	898,000円

「花ごはん」で楽しむ白馬 Alps 花三昧・2019

取組に至る背景・事業の目的

白馬村のグリーンシーズンの中心イベント「白馬 Alps 花三昧」の魅力向上のため、昨年「花ごはん※」で白馬村を訪れる皆様をおもてなししている。この取組を地域全体に広げて地域活性化を目指すとともに、「花」にちなんだ特産品を開発し、白馬村の新たな魅力発信を目指す。

(※「花ごはん」とは、エディブルフラワー(食用花)を使った料理や花をモチーフにした器で食事を楽しむ取組)

事業内容

- 「花ごはん」の追加レシピ提案
- 「花ごはん」を提供する事業者の募集
- 新たな食の提供に関わる知識や技能の拡大
 - ・料理講習会の開催 (1回)
 - ・エディブルフラワー栽培講習会の開催 (1回)
- 各種イベントでの「花ごはん」の提供やPR
 - ・花ごはんバスツアー (観光局主催)
 - ・信州花フェスタ 2019 (長野県主催)
 - ・BMW モトラッド DAYS in 白馬 (BMW 主催)
- 花をテーマとした特産品の開発
 - 3種類の試作品の中から「花ロールケーキ」を選定



【大勢が参加した栽培講習会】

事業効果

- 「花ごはん」の地域への普及

花ごはん料理講習会、エディブルフラワー栽培講習会等の実施を通じて、花ごはんの地域へ普及が図られたことに加え、花の栽培から料理まで地域全体で提供できる仕組みづくりに貢献した。

(「花ごはん」提供参加事業者数：25 事業者→36 事業者 (+11))
- 花ごはんを通じた白馬村のPR

「白馬 Alps 花三昧」、「信州花フェスタ 2019」などのイベントに協力し、イベントを盛り上げるとともに、花ごはんを広く周知した。さらに、特産品土産として「花ロールケーキ」を開発し、白馬村の魅力を全国に発信した。

(白馬 Alps 花三昧来場者数：対前年比 11%増)

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・「花ごはん」の更なる周知に努め、参画する事業者を増やす。
- ・事業者の創意工夫による様々な「花ごはん」の提供ができるようにバックアップしていく。
- ・関係者、村観光局と連携を図り、Web を使った発信を強化し、花ごはんを通じて白馬村のPR につなげる。
- ・開発した「花ロールケーキ」を白馬村の新たな特産品としてPR し、白馬村の魅力発信に取り組む。

【選定のポイント】

「花ごはん」料理講習会等を通じて、「花ごはん」の地域への普及に取り組み、また、白馬観光局主催の花ごはんバスツアーや信州花フェスタ 2019 に参画し、白馬村のPR に貢献した。

令和2年度に「花ロールケーキ」の販売が開始されており、新たな特産品を通じた白馬村の魅力の発信が期待される。

団体名	白馬 Women's Club (白馬村)	事業タイプ	ソフト
連絡先	会長 丸山則子	事業費	1, 6 5 3, 4 3 8 円
		支援金額	1, 3 2 2, 0 0 0 円

落倉高原浅間山～牧寄スキー場跡ハイキングパーク構想

取組に至る背景・事業の目的

白馬村落倉地区の浅間山と牧寄スキー場跡の丘陵地帯（標高 100m弱、距離 3～4 km）の尾根は、鹿島槍から白馬乗鞍の絶景を楽しめる場所であるが、案内看板や休憩場所等がなく、安全で気軽に楽しむための整備がされていない。この周辺をウォーキングコースとして整備し、ガイドを育成することにより、落倉地区への誘客を図るとともに、地域の活性化を図る。

事業内容

- 落倉高原浅間山周辺の整備（6月～11月）
 - ・広場づくり（3カ所）
 - ・ウォーキングコースの拡張、入口周辺の整備
 - ・駐車場の整備
 - ・案内看板等の設置
 - ・間伐や下草刈り等の里山整備
- 観光誘致に関する取組
 - ・集客用プロモーションビデオ・リーフレットの作成
 - ・インバウンド用英字チラシの作成
 - ・ガイド育成教材の作成、研修会の実施
 - ・地域住民の体験プログラムの実施



【展望広場】

事業効果

- グリーンシーズンの観光誘致
安全で気軽に楽しめるウォーキングコースを整備するとともに、ガイド育成研修会の実施により、アシスタントガイドが4名増員となった。観光客の受入体制が向上したことにより、今後の観光客の増加が期待される。
- 地域の産業振興
地域住民による里山整備、体験プログラムを通じ、この地域全体が魅力ある観光資源であることに気づき、ボランティアによる参加も増加した。地域で観光誘致に取り組む体制ができつつあり、地域活性化に期待がもてる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・毎年コース草刈り・間伐などの整備を行うことと同時に、大木広場に東屋・水芭蕉広場の階段や柵の設置などの安全対策を継続して実施する。
- ・牧寄スキー場跡コース周遊するためのコース看板の増設を行う。
- ・将来的には、ウォーキングイベントや学校教育の場所としての活用ができるようにスタッフの教育と増員を図る。

【選定のポイント】

地域住民の手で白馬村落倉浅間山周辺のウォーキングコースを整備するとともに、ガイドを育成して当地域への観光客の受入体制を向上させた。

地域住民による観光誘致の取組を継続することで、地域活性化につながることを期待される。

団体名	特定非営利活動法人 落倉バックカントリーフィールド（白馬村）	事業タイプ	ソフト・ハード
連絡先	理事長 高橋 誠	事業費	763,134円
		支援金額	607,000円

信州中野おごっそフェア

取組に至る背景・事業の目的

中野市を含む信越自然郷エリアでは、北陸新幹線の開業により首都圏、北陸地域及び関西圏との交通の利便性が向上し、国内旅行者はもとよりインバウンドの誘客も期待できる状況にある。中野市近隣の市町村では、各地域の資源や特徴等を地域価値として活かした旅行者のための様々な受け皿が整備されている。中野市においても、地域の独自性を発揮できる農産物の生産が盛んであることや、多様な自然、歴史、文化が育まれてきたことから、他の地域を訪れる観光客等の通過地点ではなく、中野市を着地点に観光客等が訪れる取り組みが必要である。そのため、中野市の食を通して市外県外へ魅力を発信しPRすることを目的とする。

事業内容

- 開催日 令和元年 10月26日（土）、27日（日）
- 場所 中野市防災広場
- 内容
 - ・うまいもんブースでの中野市産の食材・農産物を使用したイチオシ！メニューの販売
 - ・おごっそ！す〜ぷ令和版の開発・販売
 - ・AMAZAKE フェア（甘酒飲み比べ）＋発酵食品文化のPR
 - ・JA youth Marche（農産物の販売とネット販売PR）
 - ・ご当地ヒーロー倍増戦士ロゼショー（おごっそフェア版シナリオ）
 - ・YEGノDASHIMONO（オリジナル看板メニュー開発・販売）
 - ・N-1グランプリ（事業者自らプレゼンする食のコンテスト）
 - ・他の団体事業（SEA TO SUMMIT）、地元高校生との連携
 - ・QRコード決済の推進PR、SNSを活用した広報活動 他



【おごっそフェア会場】



【AMAZAKE フェア】

事業効果

- うまいもんブース出店者数 40者
- 来場者数 10,015人
- 市外県外来場者割合 44.9%

令和元年東日本台風の災害に当地域も見舞われ、様々なイベントが中止や自粛せざるを得ない雰囲気の中、「おごっそフェアを開催し、前に進めていく事を復旧復興のシンボルとしたい」という思いで開催し、ほぼ予定どおり事業を実施することができた。事業者の中には被災され、出店を取りやめる方もあったが、ほぼ前年と同数の出店が得られた。

来場者数は目標の16,000人に達しなかったが、このような状況下でも10,000人を超えることができた。また、他団体と連携した企画やSNSを活用した広報活動の結果、通年でのフォロワー数の増加と、市外県外からの来場者及びリピーターの増加につなげることができた。アンケートでも86.1%の方から再訪したいという回答をいただいた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

例年10月に中野市で食のイベントを開催しているということが、市内外に認知され始めたが、さらなる地域資源の魅力発信・事業者の販売促進のため、また、継続によるマンネリ化防止のためにも、過去に培った知識や経験を活かして常に新たなチャレンジを試み、事業を継続して実施していく。

また、中野市・おごっそフェアのファンを増やしリピーターを保持することで、今後の交流人口の拡大と地域活性化につなげていく。

【選定のポイント】

開催直前に令和元年東日本台風に見舞われたが、出店者等の理解と協力を得て、ほぼ予定どおりフェアを開催し、地元事業者や住民の大きな励みとなった。SNS等での情報発信の強化によりイベントの認知度も向上しており、地域の魅力発信とともに観光客の増加、産業振興が期待される。

団体名 信州中野おごっそフェア実行委員会(中野市)	事業タイプ ソフト事業
連絡先 0269-22-2191 (信州中野商工会議所)	事業費 21,712,810円
ホームページ https://www.ogosso.nakanocci.or.jp/	支援金額 4,400,000円
メールアドレス ogosso@nakanocci.or.jp	

地域のママたちの「やりたい」を応援！スキルアップ講座事業

取組に至る背景・事業の目的

- 「子連れで出かけることで周りに迷惑をかけないか」と不安になり、子連れでの外出に躊躇してしまうママは多い。「信州おやこさんぽ」では長野県に住む子育て世代の週末がもっと楽しくなるための子育て世代向け長野県おでかけサイトを製作・運営しており、その中で、小さな子どもを持つ家族に向けた上田地域版のおでかけマップの必要性を感じていた。
- 一方で結婚や子育てが「今までのキャリアを捨てること」になってしまうという不安を感じているママたちがスキルアップすることで「自信」をつけ、さらにはスキルを「仕事」に繋げることを目的に事業を実施した。

事業内容

- おでかけマップ作りワークショップの開催
子連れで出かけることの悩みをシェアし、問題解決のための意見や情報を集積。
- ライター講座
新聞記者やブロガーによる文章の書き方、写真家による写真の撮り方等を8回のカリキュラムで実施。
- イラストレーター講座
グラフィックデザイナーによるイラストレーターの操作を3回のカリキュラムで実施。
- WEB制作講座
サイトを運営しているシステムエンジニアによる、HTML、CSSの基本文法から、ワードプレスの操作方法までを5回のカリキュラムで実施。



【マップ作りワークショップ】



【スキルアップ講座】

事業効果

- ワークショップの意見を反映させた「子育て世代向けお出かけマップ」が制作できた。「こんなマップが欲しかった」と多くの意見をいただいた。保育園等の要望により追加印刷となった。
- スキルアップ講座の受講者の中から「実際に収入を得た」「HPを開設した」という声が届いている。
- 信州おやこさんぽの事業に協力してくれる方が事業実施前に比べ倍以上に増加した。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 講座で学んだ内容を実践でしっかり身に付けてもらうため、受講者がお出かけマップの一部分の制作やWEB版のページ作成を行った。受講者は子育て世代のママなので、主体性を持って取り組んでくれた。
- 支援金の存在を知らない人も多いと感じたため、応募時から事業終了までをWEBを通じてレポートとして報告を兼ねてSNSで拡散した。
- コロナ禍で『お家を楽しむためのコンテンツの充実』を望む声が上がってきたので、どのようなものを考えていけばいいかアンケートを実施中。

【選定のポイント】

- ・スキルアップ講座の受講者が受講して得たスキルを活かしてライターとして収入を得る等「自信をつけスキルを仕事に繋げる」という目的達成に向けた効果が出ている。
- ・ワークショップの意見を反映させて作成した情報マップは好評となり当初の5,000部に2,000部増刷し、店舗の他、上田市内の全幼稚園、保育園等に配布された。

団体名 信州おやこさんぽ（上田市）	事業タイプ	ソフト事業
メールアドレス shinshu.oyako@gmail.com	事業費	875,206円
	支援金額	648,000円

アートによる共生社会づくり事業

取組に至る背景・事業の目的

近年、諏訪地域では人口の少子高齢化に伴い子どもの数が激減する中、特別支援学級や養護学校の児童数は増えており、障がいをもつ子どもの割合は増えている。また、高齢化による身体・精神・認知の障がいを後天的に得る人も増えており、地域全体で障がいのある人の割合が増加しているといえる。このような状況から、地域を元気にできるかどうかは、障がいのある人とない人が共に豊かに暮らせる共生社会の形成にかかっている。私たちは障がい者の芸術活動であるアールブリュットの場で、地域の人々が障がいの有無を越え一緒に活動し、相互理解を深め、さらに、アート自体が持つ力により、地域全体がエンパワーメントされることを目指した4つの活動を実施した。

事業内容

障がい者アートの力の素晴らしさを、多くの人に伝える活動により、障がいの有無をこえた包括的かつ多様性のある共生社会づくりが推進されることにより、諏訪地域を元気にすることを目的として、以下の事業を行った。

- ① 著名な講師を招いてのアートワーク&セミナー
- ② 毎月定期的に行う身体表現のワークショップ
- ③ 作品の常設展
- ④ 作品のリース事業
 - ・アートワーク&セミナー：7/6、7 延べ84人参加
 - ・身体ワーク：4月～3月 11回 延べ48人参加
 - ・アート作品常設展：4月～3月 約1000人が来場
 - ・アート作品リース事業：4月～3月 延べ33件貸与



【アートワーク&セミナー】

事業効果

7月のセミナーでは、ワークの方法論のみならず、根底にあるエッセンスを経験豊富な講師陣から学び、ワークの中で実践することで、より高度なスキルアップができた。また、参加した子どもたちには、地方では体験できないワークを体験する機会となった。その他、月1回の定期ワークや、常設の作品展、リース事業により、多くの人々に障がい者の作品に触れる機会を提供でき、共生社会づくりが推進した。アート作品の発表の場、制作費用を提供できたことで、今年度は中央の作品展に作品を応募し、入選かつ入賞を果たした方もおられた。大きな成果であったと感じている。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

これまで、障がい者アートには①経済的な支援、②発表の場、③制作場所の3つが不可欠だと考え、事業を実施してきたが、2020年2月に作品を制作するアトリエを備えた就労支援事業所を開設することができた。今後は、この事業所を核として、引き続き地域における障がい者アートの支援と共生社会づくりを継続していきたいと考えている。

【選定のポイント】

地域住民が障がい者と一緒にアート活動し、障がい者の芸術文化に触れることにより相互理解が深まり、共生社会づくりが期待される。

団体名	アートで共生社会づくりを目指す会（下諏訪町）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0266-55-7213	事業費	902,322円
Mail	info@seeds2008.org	支援金額	721,000円

井戸尻を元気に！ 地域を元気に！ 事業

取組に至る背景・事業の目的

昭和 30 年代から縄文時代遺跡の発掘が本格化したこの地域は、当初から地元民が在野の考古学者の指導や高校生の協力を得て遺跡保存及び維持に関わってきた。この誇らしい歴史を継承し、井戸尻地域を盛り上げていきたいという有志が集まり「井戸尻応援団」を結成した。行政とは異なった住民の柔軟な視点で井戸尻の魅力を様々なイベントとして発信し、考古学に興味のない人にも気軽に参加できる機会を設け井戸尻のファンを増やすきっかけとしたい。同時に活動を通じ、地元住民が井戸尻を地域の宝として再認識するきっかけになる事も期待している。

事業内容

○シンボルマーク活用事業

- ①クリアファイル 200 部作成：イベント参加者等に配布
- ②マグネットステッカー100 部作成：応援団メンバー、考古館職員、役場公用車、その他関連団体等の車に貼ってもらう
- ③アイロンプリントシール 500 マーク作成：イベント参加者、関係機関に配布。複数枚配布し各自Tシャツなどにアイロンでマークを張り付けてもらった。

○イベントPR用チラシ作製 150 部 ポストカード 150 枚

○屋根の葺き替え作業のワークショップ

- ①復元住居屋根の修復事業 ②屋根の葺き替えについて講習会
- ③茅の下ごしらえボランティア 3 回

場所：井戸尻史跡公園復元住居前 講師：堀尾暁彦氏



【屋根の葺き替え作業のワークショップ】

事業効果

- クリアファイルやマグネットステッカー、アイロンプリントシールを配布することによって多くの人の目につく宣伝効果が得られた。自ら使うことに加え、知人家族などに配布することで広がった。
- ポストカードはイベントのお知らせに加え、魅力あるカードにしたことで受け取った人が他の人にも紹介してもらう資料となった。
- 茅葺屋根の葺き替え事業では、茅葺屋根の葺き替え講習会、茅の取り扱い方の実際、葺き替え作業見学により、茅葺屋根についての理解を深め、参加者が葺き替えの初歩的な作業を身に着けることができた。また、作業に参加したり子供たちが屋根に登る機会を作った事で、復元家屋に対する愛着がわき井戸尻を訪れる機会にもつながった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 今年度、シンボルマークを広めるために、アイロンプリントやクリアファイル、マグネットシートなどを制作し普及に努めたが、評価が高かったため、来年以降は販売を視野に入れ会の継続活動のための資金にしたい。(事項：令和2年度にクリアファイル、マグネットシートの販売に加えシンボルマーク入りのマスクを作成販売。マスクは好評で障がい者支援組織に制作をお願いし活動の輪が広がっている。マーク入りのポロシャツも役場職員有志によって広がり好評で職員の多くが着用している。令和2年度はコロナ禍でイベントができず、復元家屋の夜話を撮影、動画配信を試みた。今後は考古館と協力し井戸尻の魅力をネットで配信する事業にも力を入れたい)
- 応援団のメンバーの高齢化に加え固定化しているため、新しいメンバー募集に努めたい。

【選定のポイント】

地域住民が縄文文化を理解する機会を創出し、レンコン掘りや茅葺屋根の葺き替え作業に携わることにより、井戸尻地域に対する愛着を醸成し、住民自らが縄文文化のファンとして情報発信や普及活動を行うことが期待される。

団体名	井戸尻応援団 (富士見町)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	090-5553-2376	事業費	857,761円
HP	http://idojiri.fujimi-kogen.com	支援金額	619,000円
Mail	chiyoko@chiyokoangel.com		

山下町地区多世代交流実践事業

取組に至る背景・事業の目的

平成 29 年度より、元気作り支援金の採択を受け始まった「山下町地区多世代交流実践事業」が 3 期目を終えた。この事業は核家族化の進展により、世代間問わず孤立化している問題解決に向け平成 29 年度からワークショップを開催し地域住民・子育て中の母親・事業所の職員を中心に参加し制度的な理解（地域包括システムとは）から、自分たちが「何ができる？何がしたい？」を具現化するため検討を重ね運営・運用の主体を地域住民と和が家スタッフで共に考えていく「&HOUSE」というチームが生まれた。地域住民（子ども～お年寄りまで）・事業所の利用者、それぞれの役割を担い、お互い様の支えあいの仕組みを、発展させ、住民参加型の多世代交流拠点とすることを目的とした。

事業内容

- ① 地域作りワークショップの開催
（住民と和が家に来られているお年寄り
スタッフを含めた地域作りワークショップの開催）
- ② コミュニティガーデン「あんとガーデン」の完成
（車いすでの移動がスムーズに行えるようにスロープ設置
子どもたちの遊び場となる人工芝、日除け設備、地域住民と
共につくる畑の整備等）
- ③ 毎週水曜日にコミュニティハウスの開放と駄菓子屋の開店
（開放日 39 日 405 名利用）
- ④ 子どもカフェ（あんとの食卓）の開催
（5 月・8 月・1 月・3 月※コロナウイルス感染拡大の為中止）
- ⑤ 住民と&HOUSE 共同のイベントの開催 2 回
（8 月流しそうめん大会・11 月完成お披露目会）



【11 月あんとガーデン完成お披露目会】

事業効果

- ① 継続して地域作りワークショップを行うおことによりメンバー以外の方からも意見を頂けるようになってきた。
- ② あんとガーデンはこれまでの運営運用の中で地域の方々から頂いた意見を取り入れ完成した。11 月にお披露目会の実施。近くにある保育園の子どもたちが散歩の途中で立ち寄ってくれる機会が増え少しずつ地域の拠点となってきている。
- ③④⑤ 毎週水曜日の開放にあわせ、駄菓子屋を開店させたことによりお年寄りの役割ができ子どもたちや地域の方々も足を運んでくれるようになった。あんとの食卓ではメンバー・和が家のお年寄り・地域住民が一体となりそれぞれが役割をもち多世代交流が行われた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- あんとガーデンを開放的で誰がきてもいい OPEN な場所にするために楽しいイベントや多世代で楽しめる活動やアイデアを持ち込み誰もがしやすい居場所にしていく
- できないこと、困っていることを外に開示し常に未完成であり続けることで、できる範囲で関わってくれるひとを継続的に繋げていきたい。
- 子ども食堂（あんとの食卓）は定期開催の他、今後は開催回数の増加を検討していく。

【選定のポイント】

地域の子どもの居場所を高齢者介護施設内に置くとともに、ワークショップを通じて信州子どもカフェとして運用することにより、高齢者と子どもたちとの多世代交流の促進が期待される。

団体名	株式会社 和が家（岡谷市）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0266-75-2706	事業費	4,500,000 円
		支援金額	3,400,000 円

都市農村交流事業「さはら塾」

取組に至る背景・事業の目的

少子高齢化や人口減少の影響を受け、集落の維持が喫緊の課題となっていた山間集落では、移住・定住の推進をこれまでも行ってきたが、地元住民と移住者の価値観や生活スタイルに大きな隔りがあるなど、地域コミュニティ維持のために必ずしもうまくいっているとは言えなかった。

そこで、移住に至るまでの前段階で地区住民との交流を持ち、その上で移住に繋がれば、スムーズに定住に移行できるだろうと考え、当村の山間集落である佐原地区をモデル地区として「さはら塾」を開催した。さはら塾では、佐原地区で普段から行われている行事に都会からの参加者が準備段階から参加し、住民と同じ作業を行うことで地域の人と文化を知り、地域の魅力を押し付けるのではなく、参加者自らが地域を肌で感じてもらう目的で実施した。

事業内容

1 佐原地区納涼祭への参加

佐原地区で毎年お盆に開催している「納涼祭」へ準備の段階から参加。会場づくりや屋台の設置、屋台の売り子など地区住民と同じ役割を担った。

2 どんど焼きへの参加

当地域伝統のどんど焼きへ準備から参加。前日の「おんべ」作りから当日の火付けを行い、佐原地区で栽培したもち米で作った餅をオキで焼き、住民と一緒に無病息災を祈願した。



【どんど焼きへの参加】

事業効果

・納涼祭

東京からの参加者が22名、地元の参加者が60名となり、いつもの年に比べると人数的にも参加が多かったことで、例年よりも盛り上がった。

準備段階から参加者が携わったことで、地元住民に「お客様感」がなくなり、遠慮や隔りが少なく、どちらもスムーズに接することができていた。

地元ケーブルテレビの取材も入り、村内全体にこの活動を周知することができた。

・どんど焼き

東京からの参加者が22名、地元住民が50名参加した。納涼祭への参加者と同じ顔触れも多く、2回目の開催ではより、身近に接することができた。

納涼祭に比べ、佐原地区でも携わる団体が多く、さはら塾自体の地元での認知度が上がった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

地元住民の理解度を深めるために事前打ち合わせを何度も行い、地区にも協力してもらって住民への周知や理解をしてもらうことに苦労した。

回数を重ねるごとに、交流の深みが増していくことを感じたため、今後は住民の負担感を抱かせない程度に回数を重ねていきたい。

3月にもう1度「炭焼き体験」を題材とした交流を行う予定であったが、新型コロナウイルスの流行によって中止となり、事業が一旦ストップしてしまった。

コロナ禍で、どのように交流を続けていくのか、もう一度地元と話し合いを持ち、次年度以降も続けていきたい。

【選定のポイント】

予定人数を上回る参加があり、都市部の参加者に好評であった。また、地元住民の理解や期待度が高まり、地区の会議等で次年度のアイデアが話し合われるようになった。他地域のモデルとなるような取組であり、つながり人口づくりや移住定住の促進が期待される。

団体名 豊丘村総務課

連絡先 0265-35-9050

メール kikaku@vill.nagano-toyooka.lg.jp

事業タイプ ソフト事業

事業費 498,043円

支援金額 373,000円

木曾ペインティングス事業

取組に至る背景・事業の目的

- 近年「中山道歩き」のブームにより外国人観光客が増加しているが、藪原宿（木祖村）は通過するだけで滞在する場所となっていないというのが現状である。その一因として、藪原宿は平成 27 年の段階で空き家率が 24.4%にまで増加し、放置された空き家が観光客にとって寂れた印象を与えている点が挙げられる。
- そのため、木曾ペインティングスと連携した事業を実施し、藪原宿の 5 軒の空き家を再生する。また招致した作家と共に清掃作業や地域住民への聞き取り等の調査を行いながら作品制作を実施。空き家問題に美術という角度から向き合い、地域の眠る魅力を掘り起こす新しいタイプの展覧会の開催により、藪原宿に多くの観光客を誘致し宿場の活性化を図ることを目的とした。

事業内容

- 美術作家と美術大学生の 26 名が藪原宿の空き家 5 軒の歴史を掘り起こしながら清掃や片付けから始め、家に残された素材等を利用した作品を制作し展示。
- 地域住民対象のワークショップ、木祖小中学校、木曾養護学校の課外授業を 6 回開催。
- 藪原宿と縁のある画家・藤田嗣治に着目し、藤田に扮して鳥居峠から街道を練り歩くフジタパレード・藤田嗣治作品巡りのツアーを開催。
- 地元企業と共同しオリジナルラベルの地酒限定販売。



【オープニングイベント
「フジタパレード」】

事業効果

- 展示会来場者数 7,910 名
- 空き家を展示や市場の会場として活用した事で地域住民は懐かしみ文化伝承に貢献してくれ、他地域からの観客は作品と共に藪原宿特有の建築様式にも触れる機会となり反響が大きかった。空き家の活用モデルとして提示することができた。
- 世界で活躍する国内外の美術作家が地域の小中学校の授業を受け持つ事で広い視野を育み、またイギリスやメキシコとの国際交流により子供たちの好奇心を大きく刺激した。
- 地域の文化財発掘と紹介として開催した藤田嗣治作品巡りの反響は大きく、参加者と共に全国からの問合せも多数あり、展覧会や各イベントではアート、クラフト、グルメ等様々な分野や目的を持つ人々の集客ができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 美術作家の視点で捉えた地域の課題をテーマとした展覧会と、地域住民を対象としたワークショップ開催の継続。
- 子供たちの視野を広げ柔軟な思考を持って社会を生き抜く力を身に付けてもらうため、教育委員会等と連携し一線で活躍する美術作家が木曾地域の子供達を対象に定期的に授業を行う機会づくり。
- 日曜画家を謳う木祖村を画家の村とし芸術文化を根付かせ、国内・国外から美術作家や学生が集い地域交流を深め、文化発信の場となるような拠点づくり。

【選定のポイント】

知名度も年々上昇し、予想以上の集客を得られたことは大きな成果である。今後は事業を通じて培われた地域内でのつながりや様々な人々とのネットワークを最大限活用して、地域を代表するイベントかつ交流のプラットフォームとして発展していくことを期待する。

団体名 木祖村	事業タイプ	ソフト事業
連絡先 0264-36-2001	事業費	1,339,310円
ホームページ https://www.kisopaintings.com/	支援金額	1,047,000円
メールアドレス kisopaintings@gmail.com		

松本地域の異業種連携事業「ゆかたキャンペーン」2019

取組に至る背景・事業の目的

松本城を中心に栄える松本において、「着物」の似合うまちとして、日本の伝統美である「ゆかた」をテーマとしたイベント等を開催する「ゆかたキャンペーン」を実施した（第6回目）。老若男女がゆかたを着てまちに出かけることを啓発し、キャンペーン参加店舗は、ゆかた着用の来店者に各店舗独自のサービスを提供するほか、オープニングイベントとして、ゆかたを着用した盆踊り大会やゆかたコンテストを開催した。松本地域の異業種が連携してキャンペーン事業に取り組むとともに、地域住民や外国人を含む観光客が主体となったイベントを開催することで、まち全体として、城下町松本の風情を活かした地域振興や賑わい創出に取り組んでいく。

事業内容

- ・ゆかたキャンペーンの開催（7/15～8/16）
- ・盆踊り大会、ゆかたコンテストの開催（7/15）
- ・外国語版（英語、中国語）ポスター、チラシの作成・配布（ポスター500枚、チラシ10,000枚）
- ・参加店舗の募集（参加店舗73店舗）
- ・ゆかた着付け講習会の開催
- ・「松本ぼんぼん」でのゆかた着くずれ直しの実施
- ・ゆかたキャンペーン広報の実施（新聞掲載、ラジオ宣伝、チラシ配布）



【盆踊り大会】

事業効果

- ・外国語版チラシの作成・配布やオープニングイベントでの人力車やゆかた着用体験を実施することで、外国人観光客にも大変好評を得ることができた。
- ・事業の継続実施によりキャンペーンの認知が深まったことで、前回よりも参加店舗が増加した。また、実行委員会が直接店舗に伺い協賛の依頼をすることで、キャンペーンに対する理解や賛同が深まった。
- ・イベントにあわせて、信州の観光冊子の配布や地元グルメ（山賊焼き）の提供により、観光振興や信州まつもと空港の利用促進のPRにつながった。
- ・事業の主旨である日本の伝統美をテーマにした住民主体の観光イベントとして、ゆかたキャンペーンの認知度の向上やイベントの定着が見られる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・実行委員会が各店舗に事業の主旨を説明することで、有料にも関わらず協賛店舗が増加した。今後も、個々店舗への説明を継続し、宣伝効果の拡大や協賛店舗の増加を図る。
- ・「ゆかた」をテーマに連携してきた地域の団体や高校等との関係を継続し、学生の参画やインバウンドに対応した企画を立案することで、滞在型の観光振興につなげていく。
- ・観光振興における駅前での賑わい創出を重視し、松本駅前から松本城に続く商店街の理解を深め、賛同者を増やすことで、松本地域の賑わい創出事業として「ゆかたキャンペーン」の定着を図る。

【選定のポイント】

城下町松本の風情を演出する特色を活かした活動であるとともに、企業参加費による自主財源の確保を図るなど、継続的な事業の実施や地域活性化につながる活動として評価できる。

団体名	ゆかたキャンペーン実行委員会（松本市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0263-26-3850	事業費	1,983,620円
ホームページ		支援金額	1,549,000円
	http://nagano.perma.jp/event/chushinsibu_yukata/index.html		